

しまねっ湖

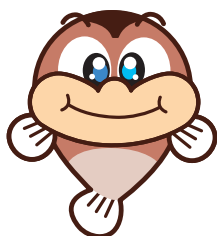


テナガエビ

Macrobrachium nipponense

テナガエビは、河川や宍道湖などの汽水域に生息しています。名まえの通り、腕が長いのが特徴で、特にオスの腕はとても長くなります。昼間は、石やヨシなどの隙間に隠れており、夜になると活発に活動します。6～7月頃、テナガエビは旬を迎えます。たも網でのすくい採りや釣りは、夏の風物詩となっています。宍道湖では主要な水産物として、から揚げや串焼きなどにして食されています。

(赤木友一)



No. 85
2026.Summer

CONTENTS

第 62 回特別展報告	2
ゴビウスのなかまたち	3
開館 25 周年 / イベント報告	4

イモリとサンショウウオ



サラマンダの不思議学

開催期間 2026年3月11日(水)～5月11日(月)



今回の特別展では、世界の珍しいイモリやサンショウウオのなかまを展示しました。あわせてイモリとサンショウウオの基本的な体のつくりや、繁殖方法の違いなどの生態を紹介しました。また、近年は小型サンショウウオの分類研究が進み、これまで1種とされていたものが複数に分かれることで、島根県は日本で一番サンショウウオの種類が多い県になったことを、各種の紹介と生息分布図で示すなど、最新の情報も紹介しました。

イモリやサンショウウオは身近なところにもいる生きものですが、水辺や森の中でひっそりとくらしているので人目につかず、そのくらしはあまり知られていません。特別展では普段は知ることが

難しい、彼らの不思議な生態と生存戦略も紹介しました。例えば、マダライモリのオスは、繁殖期に背中中の皮ふが伸びて華麗な姿になりメスに求愛する様子を、メキシコサラマンダーは、幼形成熟と呼ばれる子どもの体型のまま成熟する（おとなになる）

姿を、ファイアースラマンダーは、身を守るための毒を出す大きな耳腺を持つ姿を生体展示しました。ほかにも、エサ不足になると共食いをして生き延び



華麗に変身するマダライモリ



幼形成熟するメキシコサラマンダー



毒を出す耳腺を持つファイアースラマンダー

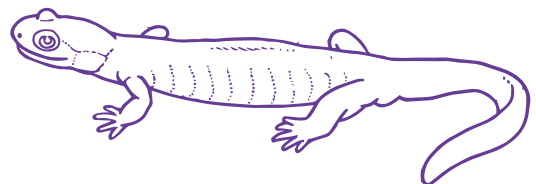
るために巨頭化（大きなエサを食べることができるようにあごが発達）する種があること、アカハライモリは失った手足はもちろん、目や内臓の一部までも復元する強い再生能力があることや、イボイモリのなかまは捕らえられると鋭くとがった肋骨の先を突き出して身を守ることなど、このような“超”能力を『サラマンダの不思議学』として解説パネルで紹介しました。

雑学として、イモリやサンショウウオのなかまを“サラマンダー”と呼ぶ由来になった、古の記述に登場する伝説の炎の怪物“サラマンドラ”についてもパネルで紹介しました。また、メキシコサラマンダーなどの幼形成熟個体を別名“アホロートル”と呼ぶ由来については、アステカ神話の神の化身の呼び名から来ていること、ハコネサンショウウオを捕る罟や燻製、クロアチアのホライモリの標本展示、江戸時代の妖怪イモリの浮世絵なども紹介しました。

今回の特別展を見てくださったみなさまは、その謎めいた生態や驚きの能力を垣間見ることができましたでしょうか？

人に役立つ再生医療の研究にも注目されているほどの生きものですが、近年は山林の開発などで生息地が減少し、ほとんどの種が国内希少野生動植物種に選定されています。人知れずひっそりとくらしている小さな生きものに意識を向け、“そこに居るんだ”と思いやりをもって共にありたい、という担当者の願いを込めた展示でした。

（寺岡誠二）





ゴビウスのなかまたち

汽水のなかま シンジコハゼ

日本海沿岸の塩分の低い汽水域に生息している全長5～6cmほどの小型のかわいらしいハゼです。島根県内ではおもに宍道湖西岸や中海への流入河川河口域でくらしています。シンジコハゼは1980年代までは“ジュズカケハゼ”という、見た目のよく似たハゼのなかまだと考えられていました。ところが研究の結果、1985年に別の種類だということが分かりました。その際に、見つかった宍道湖の名まえをとって“シンジコハゼ”と名づけられました。生息域が狭いことや、生息数が減少していることから、環境省や島根県のレッドデータブックの選定種になっています。



婚姻色が現れたメス

また、シンジコハゼは春が繁殖期です。この期間、オスには目立った変化はありませんが、メスは全身が黒色になり鮮やかな黄色の縞模様の婚姻色が現れ、背びれや腹びれを広げてアピールします。オスが巣穴を掘ったところにメスが来て、カップルが成立すると巣穴に入って産卵します。オスが砂などで巣穴の入り口を塞ぎ、ふ化するまで守ります。

一見、地味な魚ですが、水中をぴよこぴよこ泳ぐ姿や縄張り争いをしている姿など、見ていて飽きません。

(山本笑子)



オス

淡水のなかま イシドジョウ

ゴビウスでは、日本在来のドジョウのなかまのうち5種類を展示しています。今回はその中から、島根県西部に分布している“イシドジョウ”を紹介します。イシドジョウは、身体にはっきりとした縦縞模様があるのが特徴のシマドジョウのなかまです。ドジョウと聞くと、田んぼ、用水路、沼地などの泥の中にすんでいるのをイメージするかもしれませんが、この種はきれいな川の上流の石の隙間や砂の中にすんでいます。6～8月になると砂の中で繁殖を行い、生まれた仔魚は砂の中に隠れながら成長するため、幼魚を野外で観察するのはかなり難しいです。



展示しているイシドジョウ

ゴビウスでは、イシドジョウの生息状況の確認と展示を目的とした調査と採集を行っていますが、ドジョウのなかまの中でも警戒心が強く、近づくとすぐに逃げてしまうため、採集のコツをつかむのに苦労した経験があります。野外での観察は難しいですが、展示水槽では砂の中に潜らず可愛い姿を見せていますので、ぜひ観察してみてください。

(木下拓実)



イシドジョウの生息環境



おかげさまで島根県立宍道湖自然館ゴビウスは4月で25周年を迎えました

祝・ゴビウス開館25周年

～もっと近くに、ずっといっしょに～

2026年4月21日、ゴビウスは開館25周年を迎えました。

これを記念して、25年間に展示してきた生きもの（はく製標本をふくむ）の中から、1年ごとに1種を選び、全部で25種類の「Gobius 25th Anniversary Card」を作りました。カードには、その年に島根県で見つかった新種や、はじめて記録された生きものなど、思い入れの強いものを選びました。これらのカードは、3月14日～4月20日の5週にわたり、毎週5種ずつ配布しました。なかには毎週通ってすべて集めてくださったお客様もおられました。



全種を集めると「25」があらわれる

そして、4月25日と26日には記念イベントを開催し、多くのお客様にご来館いただきました。カードを1冊にまとめたミニブックのプレゼント、ゴビウスのマスコットキャラクター「ゴビィ」が登場しました。26日には、島根県の観光キャラクター「しまねっこ」も一緒に登場し、にぎやかなイベントとなりました。



みんなで記念写真

これからも、県民のみなさまをはじめ多くの方々に、島根の水辺の生きものの魅力を伝え、楽しんでいただける館であり続けられるよう、スタッフ一同努めてまいります。

(坂本 脩)

島観連許諾第9362号

ゴールデンウィークイベント

5/2 (土)～6 (水祝) 実施

報告

宍道湖自然館ゴビウス

MISSION

探偵ゴビィと
宍道湖の
おたからのナゾ

配布したナゾときシート

参加賞のマグネットシートのセット

館内に掲示された3つのナゾにチャレンジするナゾときイベントを開催しました。こたえはすべて「宍道湖のめぐみ＝おたから」に関係しており、それらが描かれたオリジナルマグネットシートを参加賞としました。多くのお客様にご参加いただき、うれしい感想もいただきました。宍道湖の自然や生きものについて、さらに興味をもつきっかけになれていたらうれしいです。

(大山淳子)



ゴビウスニュースレターしまねっ湖 No.85

発行日/2026年6月15日

発行/島根県立宍道湖自然館ゴビウス

(指定管理者: 公益財団法人ホシザキグリーン財団)

〒691-0076 島根県出雲市園町 1659-5

TEL 0853-63-7100 FAX 0853-63-7101

URL www.gobius.jp/ E-mail gobius@gobius.jp

■動物取扱業に関する表示

氏名または名称: 公益財団法人ホシザキグリーン財団

事業所の名称: 島根県立宍道湖自然館

動物取扱業の種別: 展示

登録番号: 第073102040号

登録年月日: 2007年5月17日 登録有効期限: 2027年5月16日

取扱責任者: 中野浩史



古紙パルプ配合率60%再生紙を使用

本誌は地球環境に優しい
植物性インキを使用して
おります。



植物性インキは、大気汚染の原因となる
VOC(揮発性有機溶剤)の削減および
再生紙使用の優位性が高い成分です。

